

まもなく開演 花巻市民劇場第50回公演

市内に伝わる民話や偉人、宮沢賢治の作品など、さまざまなテーマで毎年公演を行っている花巻市民劇場。本年で第50回目を迎えます。

第8回公演から参加し、これまで何度も演出や舞台監督を務めてきた、同実行委員会の高橋信也(じんや)会長に花巻市民劇場の魅力と今回の公演の見どころを伺いました。

市民有志が作り出す「劇場」

花巻市民劇場ができる前、市内には「劇研はなまき」「劇団青い鳥」「稽古場」など、複数の市民劇団がありました。昭和50年に開館した文化会館が、大ホールを使って自主事業をする際、市民劇団や市民の中から有志たちが集まって一つの舞台を作ることにした、これが「花巻市民劇場」の始まりです。

昭和52年の第1回公演からずっと「劇団」ではなく「劇場を作るために集まつた有志たち」というスタイルなので、花巻市民劇場には実行委員会の役員はいても、固定の劇団員はありません。毎年参加者を集めるのは大変ですが、ちょっと興味があるという人も参加しやすい、この気軽さが良さの一つだと思います。

でも、気軽に参加できるといつても、舞台を作る気持ちは真剣です。